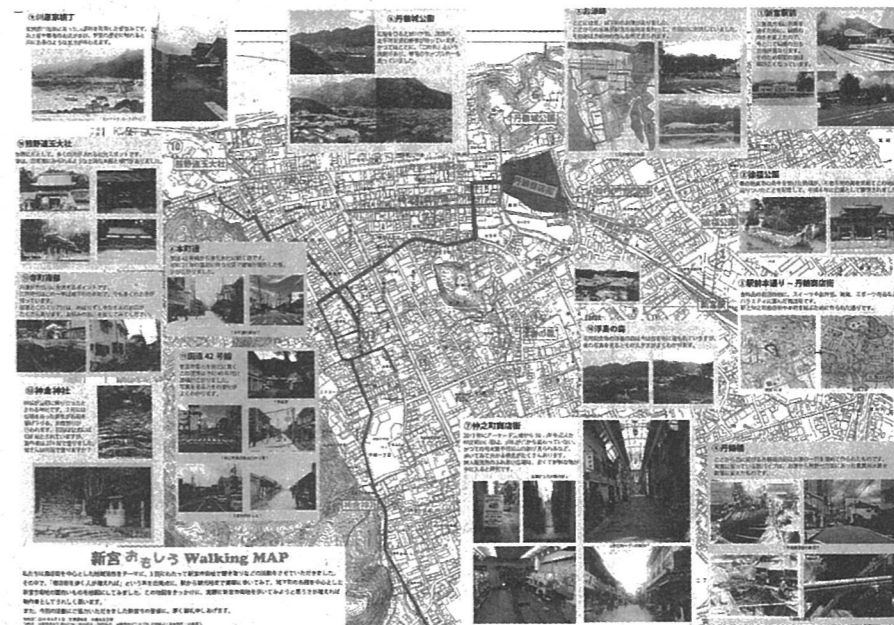


# 新宮おもしろマップ

## 大阪市立大生が授業で作製

大阪市立大学の学生たちがこのほど「新宮おもしろWalking MAP」Ⅱ写真Ⅱを作製し、新宮市に寄贈した。市は市観光協会や商店街などにマップを設置し、観光PRに活用している。



同大学は地域を再生するガッツある人材を育てることを目的に新宮市内で「地域実践学習(GATSUN)」を実施。12人の1年生と教員などが5チーム編成となつて、市内各地域の課題について聞き取り調査した。そのうちの一つのチームがこの地図を作製した。

「商店街を歩く人が増えれば」という声を出発点に学生たちがJR新宮駅から各観光地までを歩いて、

問い合わせは市商工観光課商工係(電話0735・23・3333)まで。(瀧谷 巨)

# 買い物お助け協力店

## 新宮市 カタログ3千部作製

新宮市は配送サービスを行っている市内の店を紹介する「買い物お助け協力店カタログ」を3000部作製した。写真表紙。敬老会や関連イベントで配布するほか、市役所商工観光課と健康長寿課、協力各店舗、福祉センターなどに置いていく。

各店舗の売り上げアップや高齢者の見守り強化などを目的に昨年度から実施している事業。主旨に賛同した食品、暮らし、弁当関連の52店舗の主な取扱品やサービス、配送地域、営業時間などを掲載している。主に高齢者を対象とした「生活お役立ち情報」コーナーも設け、▽生き



## 新宮市 ベビーフードを学ぶ 保健センターで離乳食教室

新宮市保健センターは19日、同センターで「赤ちゃん離乳食教室&幼児食教室」を開いた。6人が参加し、栄養士の榎本ゆ

り子さんからベビーフードの上手な利用法などについて学んだ。教室は、母親同士が交流しながら離乳食を体験的に学び、不安や疑問を解消してもらおうと開いている。「初期・中期(生後3カ月〜8カ月ごろ)」「ベビーフードやおやつについて」「幼児食期(1歳半〜2歳半頃)」の三つの内容を、年度内に8回に分けて行っている。今回は「ベビーフードやおやつについて」の2回目。

榎本さんは、瓶や缶に入った「ウエットタイプ」と、食品を調理後に乾燥させ、お湯を加えて食べる「ドライタイプ」



榎本さんから説明を受けながら食べ比べる参加者ら = 19日、新宮市保健センター

## アーケード開設50周年で記念イベント



参加者同士が会話を楽しみながら買い物を楽しむ = 22日、新宮市の仲之町商店街

# お店まわりツアー

新宮市の仲之町商店街は、記念したイベント両日、商店街のわりツアーを行うが参加した。50周年にちなみ、各店舗で破るとあって両日間に達するほど西理事長は参

際に歩き、城下町の名残のある市街地の面白い場所を地図に落とした。古い絵はがきと現在の写真で比較しながら、寺町、丹鶴橋、神倉神社などを紹介している。

授業を担当した水内俊雄教授は「新宮市の城下町の系譜を味わいながら商店街にも足を運びお金も落とし、またリピーターになっていただく仕掛けとして活用していただければと願っています。大学の地域貢献としても、このような交流と成果物ができることは大変うれしいことです」と話している。(瀧谷 巨)

## 防火防災に神内小で消防

三重県消防協会紀南支会(向井治支会長)は20日、紀宝町立神内小学校(徳田佳郎校長、児童91人)で消防団学校講座を開いた。講座には消防団第1分団(川上辰哉分団長)神内班6人、みえ防災コーデイネーターの奥村智さん、熊野市消防署紀宝分署4署員が参加。田尾友